

佐久間象山先生没後150年

2014年佐久間象山塾〈報告〉

世界の中であるべき日本の姿を探る

幕末の松代藩士で、明治維新に関わった数多くの志士らに影響を与えた思想家、佐久間象山(1811-64年)。彼のように幅広い視野を持って世界で活躍できる人材を信州から輩出することを目指す「佐久間象山塾」が8月9日、長野市のホクト文化ホールで開かれました。今年で4回目。前中国大使の丹羽宇一郎さんが世界の情勢と日本の未来について、富士山の世界文化遺産登録に奔走した渡辺豊博さんが富士山の現状と目指すべき取り組みについて講演しました。

約1500人が聴講した講演の要旨を報告します。



富士山から世界を見る —大きな「夢」と強い「心」を 持って難題に挑戦しよう

都留文科大学教授
NPO法人グラウンドワーク三島専務理事 渡辺 豊博 氏

昨年6月、富士山は「信仰の対象と芸術の源泉」として国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産に登録されました。富士山は「美の山」であり、多くの水をたたえる「水の山」であり、大きな噴火の歴史を持つ「火の山」です。前回、1707年の「宝永の大噴火」では、周辺地域に半年間光が差しませんでした。国によれば、今後30年間の噴火の確率は73%。噴火すれば火山灰は偏西風によって東へ運ばれ、東京は壊滅的になるでしょう。

昔の人はこうした富士山に畏敬の念を抱いていました。鎮爆を願い、必死に禁忌を守って生活しました。江戸中期から富士講が始まり、苦しい山道を登って罪を払い、再び人として正しくあろうとした。富士登山に込められた思想と哲学、そうした信仰・文化を世界が認めてくれたのです。しかしそれは過去に対する評価です。今、日本人は何のために登りますか。残念ながらハイキングではないでしょうか。

登録決定の時、私もカンボジア・ポンペンの世界遺産委員の会場にいました。20分のプレゼンテーションのうち、称賛が5分間だけ。残る15分間は「恥」でした。ごみの



【わたなべ・とよひろ】1950年生まれ。静岡県三島市出身。東京農工大農学部卒業後、静岡県庁入庁。農業基盤整備事業などを担当。2008年、都留文科大学教授。市民活動論や富士山学などを教える。著書に「清流の街がよみがえった」「富士山の光と影—傷だらけの山・富士山を、日本人は救えるか!—」など。

世界文化遺産登録の 光と影—急がれる再生

多さ、景観の阻害、安全管理不足など七つもの重い宿題を課されました。しかしそれが評価の実態です。登録された意味は何か。一つは開発の抑止です。しかし各地で暴走が始まっています。静岡県では火力発電所の建設、山梨県では登山鉄道やメガソーラーの計画…。国際基準レベルの環境保全対策もできていません。青木ヶ原も山道も湖もごみだらけ。山頂の旧トイレからは垂れ流しの跡が今も残り、私たちが設置したバイオトイレも容量をはるかに超えている。周辺のゴルフ場密度は世界一、オールナイトのスキー場もある。富士山は人間だけのものではありません。5合目まではすばらしい森がある。スバルラインとスカイラインも廃道にして、もう一度麓から歩く山に戻しましょう。

富士山は世界の宝物。日本人はそれを預かる責任があります。トンガリロ国立公園(ニュージールランド)は、自然と文化の世界初の複合遺産ですが、マオイ族の聖地と観光振興が見事に共生しています。レンジャー(自然保護官)は面積8万畝に対し230人、一方、同規模の富士山は7万畝にたった3人。日本も富士山を守る仕組みづくりが必要です。そのために、私は大きく四つの提案をしたい。①「富士山庁」を創設し、行政の縦割りを排して国が一元管理する②法律も一元管理すべく、富士山を管理する法律を制定する③富士山を守る環境税を創設④富士山学習を教育的活用します。

非効率な行政の仕組み、環境問題など、地域の問題はすべて富士山の問題と重なっています。ごみを捨てない人が育てば、富士山に來ても捨てないでしょう。足元の問題を一つ一つ解決するまちづくり、人づくりができれば、富士山も日本全体も変わるのではないのでしょうか。